

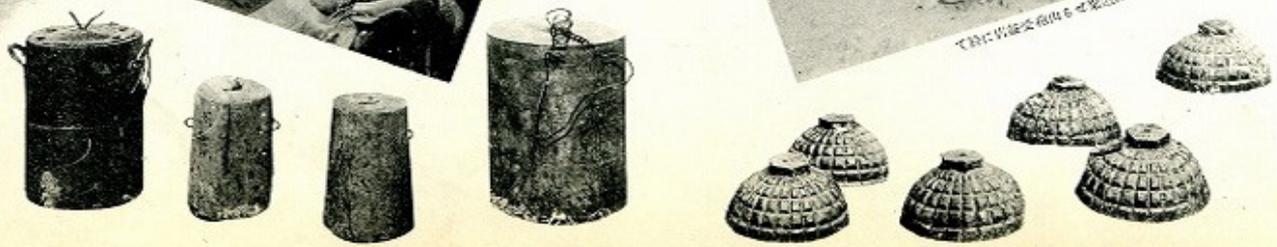
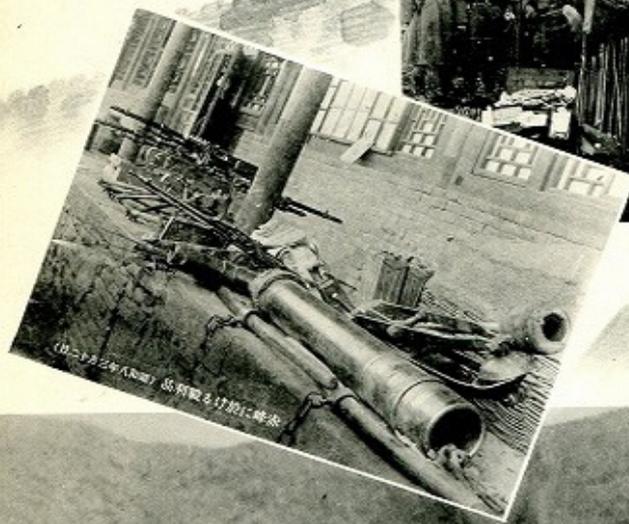


軍 從

陣中風景



敵、狼狽の跡



陣中散見



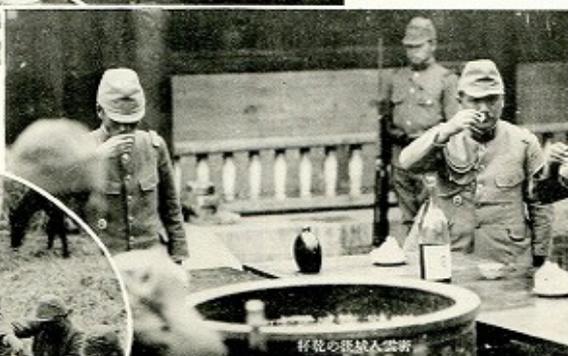
陣中の司令官軍をけだに用時



陣中の兵隊の生活



六島野るけだに酒味六
製兵船廠の母半降大三第
(昭和四年八月)



陣中の兵隊の生活



陣中野里、少



配分の袋同部



陣中野里、少
てに参り建、便のしと
(昭和四年八月)



(昭和七年) 式軍師の隊野地東第

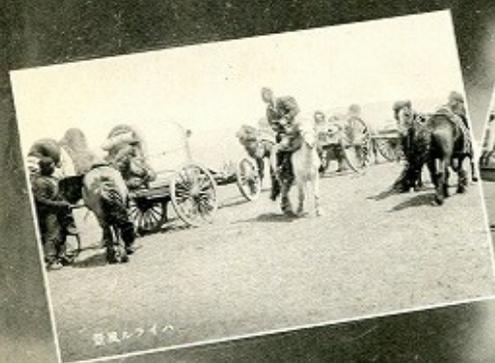


はで隊行野里、少
るげ降冬酒祝おに機行機



陣中野里、少
製附入の子普大降當伐封野地角三

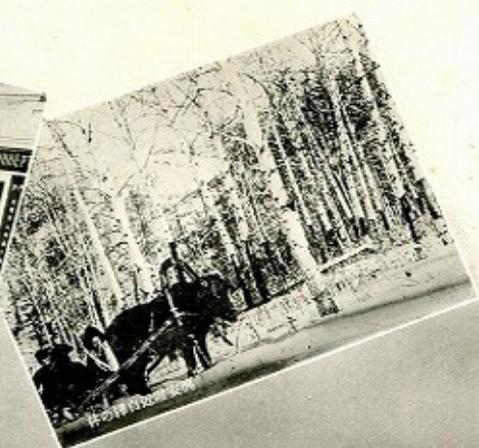
北滿風景



ライオンライオン



ハルビンの上野



ハルビンの街



ハルビンの街



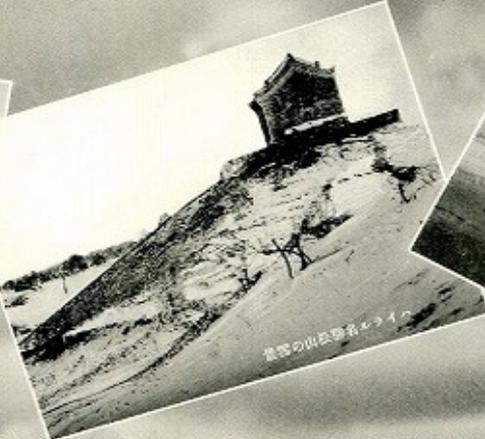
ハルビンの街



ハルビンの街



ハルビンの街



ライオンライオン



ハルビンの街

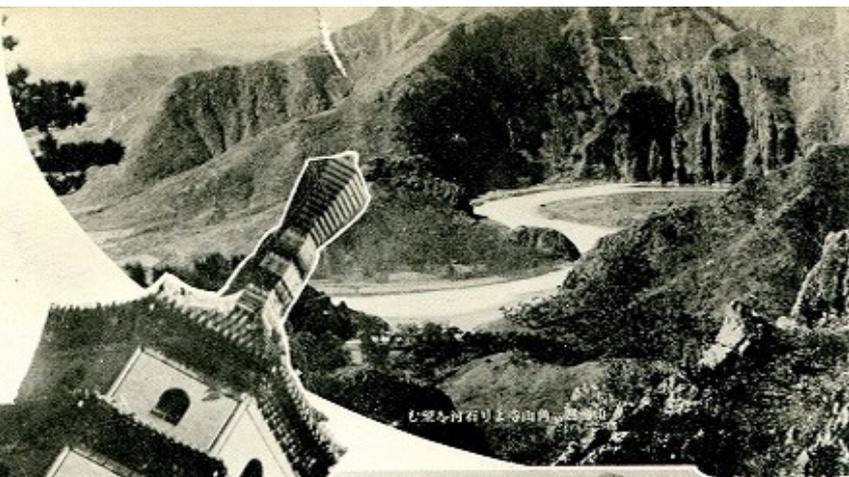


熱河風景

順義州、都倉



む望み河石り上る山角、熱河風景



門正宮離徳成



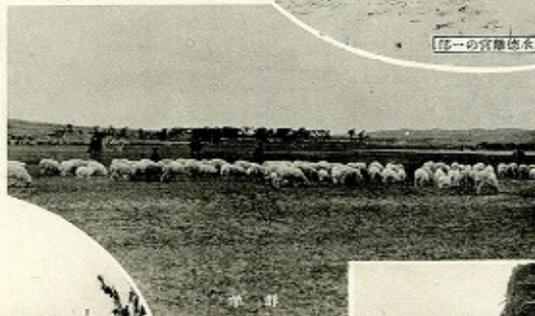
公館、博望の河熱



第一の宮離徳成



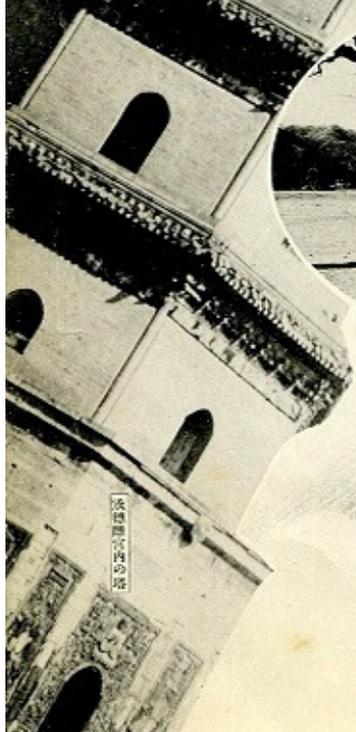
羊群



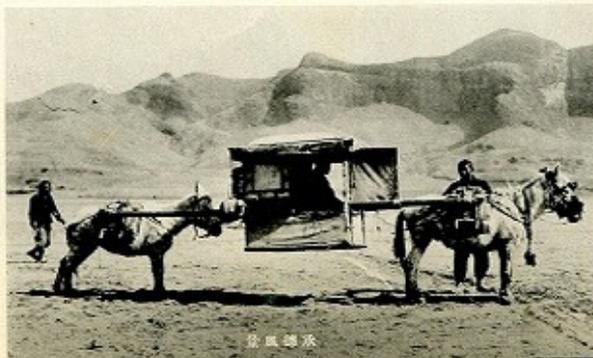
第一の宮離徳成



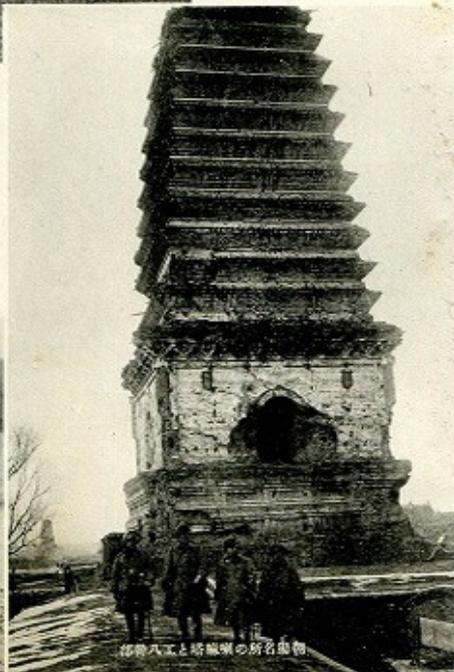
成徳離宮内の塔



熱河風景



都魯入工と塔編織の所名處物



病傷戦るあ輝光





傷兵の輸送者



傷兵を運ぶ

傷兵の輸送者



傷兵の輸送者



傷兵の輸送者



傷兵の輸送者



傷兵の輸送者



傷兵の輸送者

速に原隊復歸を念じて



（昭和14年）陸軍省
（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省



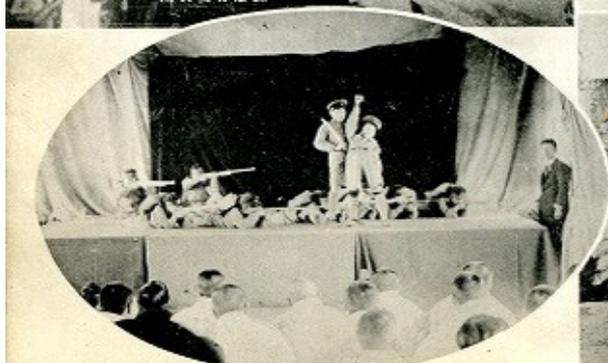
（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省



（昭和14年）陸軍省

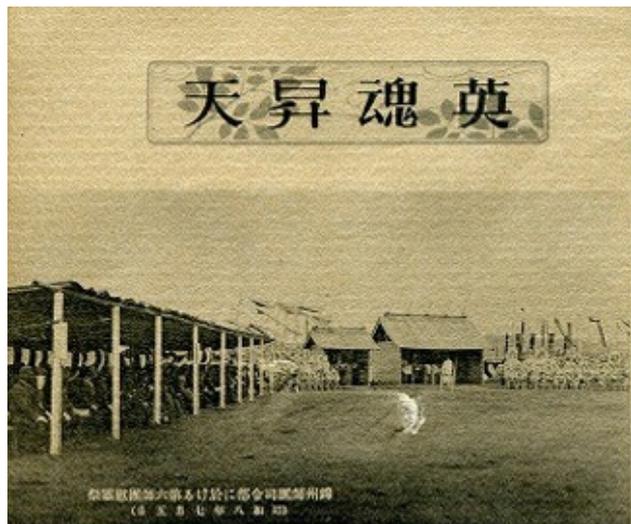


（昭和14年）陸軍省



神の國護

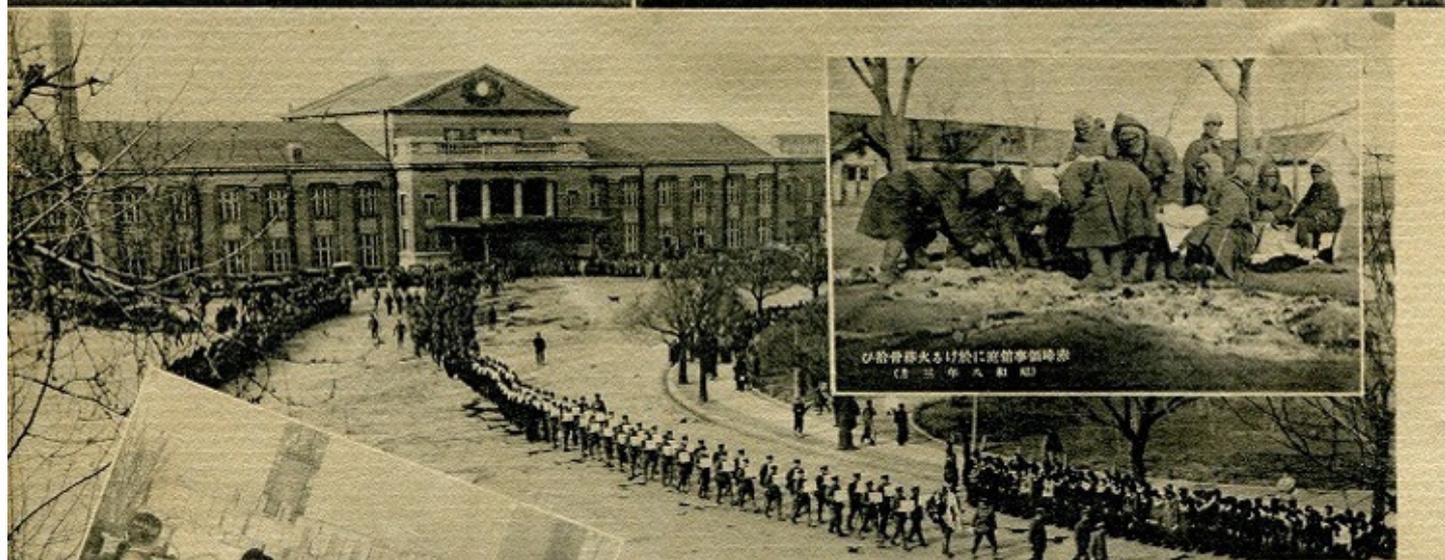
英魂昇天



英魂慰霊第六軍団に於ける司令部前州陣
(明治三十七年八月)



陣中の政制儀禮 式場を時元武立直
(明治三十七年八月)



ひ給骨塚火に於ける政制儀禮
(明治三十七年八月)



英魂の火葬に於ける儀禮
(明治三十七年八月)

陣中の政制儀禮



英魂慰霊



英魂慰霊の土葬に於ける儀禮
(明治三十七年八月)



英魂の土葬に於ける儀禮



英魂慰霊



代總軍陸ノ列參

代總軍海ノ列參

階級	氏名	出身	死没場所
歩兵第二十八聯隊	陸軍歩兵上等兵 工藤忠雄 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 小野田利昌 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 松田清 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 玉島 弘 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 細川幸助 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 住藤金作 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 高橋次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 倉内啓作 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵上等兵 前 夫 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵一等兵 佐藤 石治 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵一等兵 藤井良雄 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍歩兵一等兵 中田光郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍騎兵上等兵 草薙菊雄 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍騎兵上等兵 大品政勝 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍騎兵上等兵 高橋義治 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍騎兵上等兵 古田 武 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵中尉 野 安 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵中尉 岡本清一 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 田中 武 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 長谷義雄 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 高木次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 高橋吉治郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 小松川雄 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 大久保操次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 森谷 茂 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 峯吉新次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 多賀外吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 木嶋五郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 土田 潤 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 河部友次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 権木 恰 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 永田安次郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 金内 一郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 木村 藤吉 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 谷川茂行 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 近 藤 叶 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 子林 四郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 吉川 武夫 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 藤田留三郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 野村 浩 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 藤牛 禮吉 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 佐藤 三三 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 長尾 俊作 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 平岡 武司 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 土居 木 善四郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 梅市 仁太郎 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 草前 利吉 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 花田 義雄 今三	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 米塚 兵之助 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 安藤 市太郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 木村 庄三郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 武田 幸三郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 三浦 金次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 沼田 健作 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 戸塚 富士 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 加賀 木吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 松下 兼三 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 高橋 政吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 長谷川 清助 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 石谷 勇一 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 吉田 健次郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 新田 文雄 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 川島 義一 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 松野 慶太郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 工藤 三太郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 赤石 重雄 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 小笠原 誠 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 小井 勇一 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 小島 吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 三上 富士次 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 佐々木 喜代助 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 澤田 柱 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 橋本 平一 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 清水 重吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 加藤 正男 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 川野 石五郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 奈良 莊太郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 中濱 梅吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 青木 定市 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 千田 信吉 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 成田 三郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 坂下 生 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 谷地 龍 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 佐藤 三三 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 北田 金四郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 櫻井 興八 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 小野寺 由助 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 岡部 正男 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 中平 林平 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 吉田 清七 同	熱河省瀋陽府附近戦死	
	陸軍砲兵上等兵 下道 專太郎 同	熱河省瀋陽府附近戦死	

銃
後
の
力



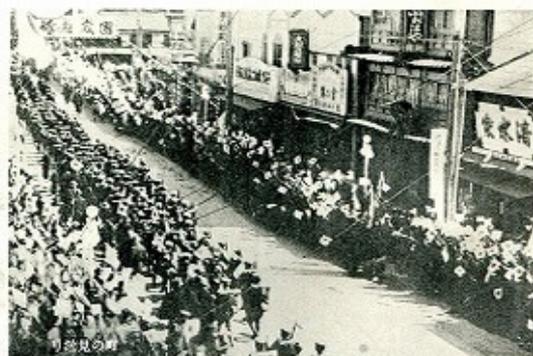
見送りと祈願



皇軍の送別



皇軍の送別



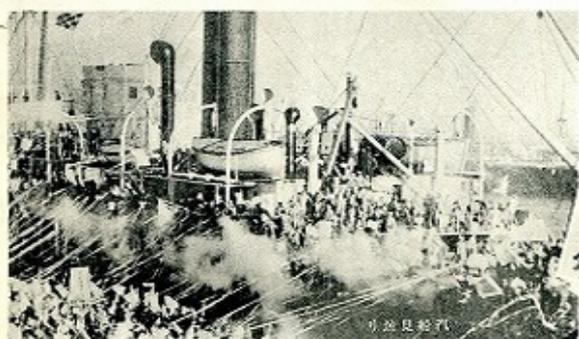
見送りの列



皇軍の送別

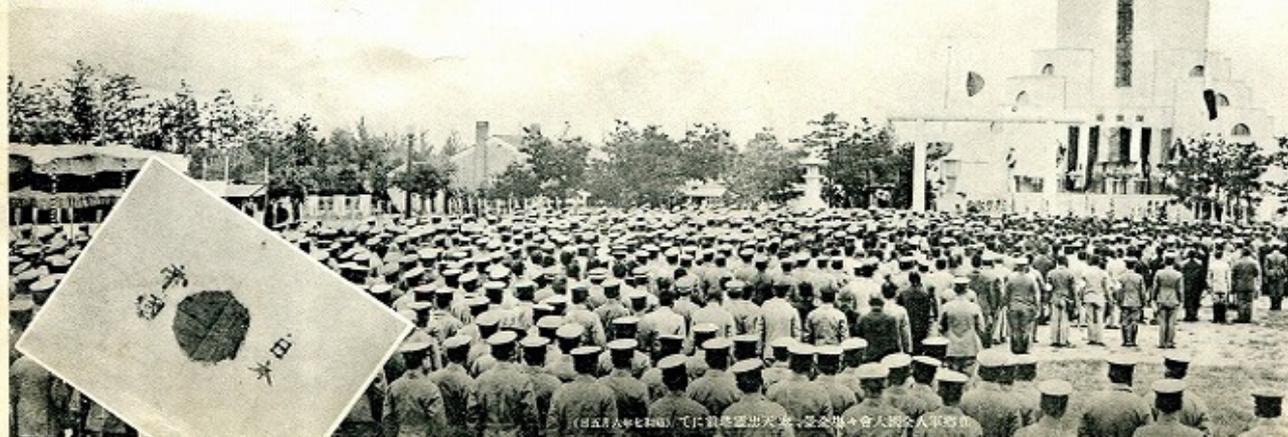


見送りの列

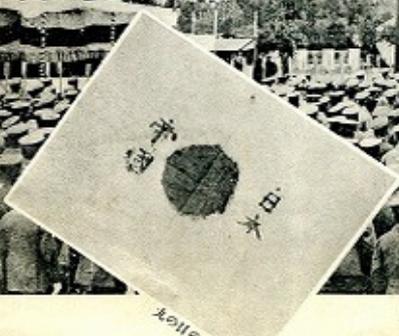


見送りの列

皇威宣揚
新運進展
在滿支同胞
武運長久
群馬大川一善年



(昭和八年七月) 七日皇軍送別式 皇軍送別会同人撮影



皇軍の送別

誠熱の国民



入糧品運搬の熱心な軍路



予備兵の熱心な訓練と軍路



東京運搬の熱心な軍路



東京運搬の熱心



東京運搬の熱心な軍路



入糧品の熱心な軍路



熱心な人々の熱心



陸軍省への献金品

恤兵寄贈金品調

陸軍省扱 昭和九年一月三十一日 現在
部隊扱 昭和八年十一月三十日

一、恤兵金受入總額

陸軍省扱 四百貳拾八萬千四百拾九圓五拾九錢
部隊扱 百拾七萬貳千貳百拾圓參拾五錢

二、恤兵品受入總數

陸軍省扱
慰問袋 貳百貳拾九萬貳千八百七拾壹個
其他 千貳百拾壹萬八千六百点
部隊扱
慰問袋 百四拾六萬九千七百貳拾五個
其他 七百五拾五萬五千四百貳点





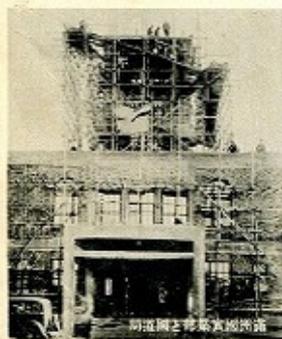
府政執



鉄道駅、車庫



以建設新編と新教文の更新



鉄道駅と支那官國鉄道



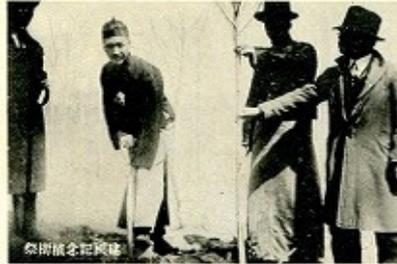
行鉄行銀央中滿



館使大本日、支新



支新民衆



祭樹植念日國建



塔念日國建



大國二年三月一日

塔念日國建



地境の軌道線



道京新民移南自洲滿

建設途上の満州国は、東洋の雄飛を期すに、其の基礎を固めんとす。其の第一は、交通の便を謀ること。其の第二は、教育の普及を謀ること。其の第三は、産業の振興を謀ること。其の第四は、国防の増強を謀ること。其の第五は、民生の安定を謀ること。其の第六は、文化の発展を謀ること。其の第七は、外交の伸張を謀ること。其の第八は、政治の刷新を謀ること。其の第九は、経済の発展を謀ること。其の第十は、社会の安定を謀ること。其の第十一は、民族の融合を謀ること。其の第十二は、国家の統一を謀ること。其の第十三は、世界の平和を謀ること。其の第十四は、人類の幸福を謀ること。其の第十五は、世界の繁栄を謀ること。其の第十六は、人類の進歩を謀ること。其の第十七は、世界の発展を謀ること。其の第十八は、人類の文明を謀ること。其の第十九は、世界の進歩を謀ること。其の第二十は、人類の繁栄を謀ること。



路軌建設新



器風磨石用設建都國



軍安塔國洲滿



隊兵騎國洲滿



式水遊機造新國洲滿

満洲国建設途上の散見①



前視第二旅隊司令部



合宿員4隊の陣地



淳本隊駐地



右側を林河沿道官代領地内に設置の隊員宿舎島岡
(日一十二月六年八日撮影 官代領地内)



見會のと司令官江崎鶴と長隊部廣越四郎
(日一七年七月)



表代河松の上市議會本廳開會



「福利」を議會員總體全開會



在滿館一印湖空協働隊支目
(日一十二月五年八日)



開隊式



前評官新生軍中圖書古製



堂北の市大るけ隊一

滿洲國建設途上の散見 ②



滿洲國建設途上の散見



滿洲國建設途上の散見



滿洲國建設途上の散見



滿洲國建設途上の散見



行一の隊隊隊隊



滿洲國建設途上の散見

満蒙は明けゆく

皇軍の歌

(一) 旭日旗々太平洋に 台湾千古不盡の礎に

萬世一系天祐深き わが皇軍をわが朝を

擁護し奉りし皇軍は 天皇御つかり純率一徳

わが皇軍

わが皇軍は日本の礎

(二) 明治の命の如しを體し 誠心より身をこめて

陸海兩軍心を協せ 軍紀は固く鐵よりし

敵度の戦は破りし 勝利を重ねて國威は高かり

わが皇軍

わが皇軍は五洲の命

(三) 三十年來歴史は誇り 術式の改良研ぎこ

非道なき善い徳を扶け 仁義の神助あり

兎も一糸の空高く 徳明きは正義の力に

わが皇軍

わが皇軍は世界の光



關東軍ノ行動經過概要ト情況

一、東邊道地區ノ討伐 (自十月十日) 朝鮮國境方面特ニ東邊道方面ニ於テハ山岳地帯且交通ノ不便ナルヲ利用シ通化ニ播據セル唐聚五ヲ始メ所在ノ兵匪頻リニ横行シテ掠奪ヲ恣ニス仍テ新ニ關東軍司令官ノ隷下ニ入レル茂木騎兵第四旅團、服部混成第十四旅團ヲシテ獨立守備ト共ニ朝鮮軍越境部隊ノ協力ヲ得テ之ヲ討伐掃蕩セシム

二、西部黑龍江省及呼倫貝爾ニ於ケル反滿軍ノ討伐 (自十月二十六日) 蘇炳文ヲ中心トスル反日反滿分子ハ西部黑龍江省ヨリ呼倫貝爾地方ニ亘リ暴戻ヲ極ム特ニ滿洲里ニ於テハ滿洲國々境警備隊員ノ武裝ヲ解除シ領事以下在留同胞ヲ監禁スルカ如キ反逆ヲ敢テセリ第十四師團ハ一部ヲ以テ十月三十日泰安鎮西方地區ニ陣地ヲ占領シアル約二千ノ敵ヲ攻撃セシムルト共ニ他ノ一部ヲ以テ拉哈附近ノ敵ヲ擊破シ十一月十九日ニハ其ノ主力ヲ以テ拜泉附近ニ集中セル敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘタリ

軍ニ於テハ凡ユル手段ヲ講シテ蘇炳文ノ反省ヲ促シ被監禁中ノ在留同胞ノ救出ニ努メシモ在再日ヲ曠フシテ之ニ應スル色ナキノミナラス潰走セル敵ハ遂次興安嶺以西ニ集中シテ蘇炳文麾下ニ合流シ反滿抗日ノ威勢ヲ示セリ安古鎮ニ於ケル殲滅戰ニヨリ生死不明ナリシ馬占山又幽靈ノ如ク敗殘ノ手兵ヲ率ヒ投シタルノ流説アリ今ヤ北滿ノ天地ハ暗澹トシテ何時凶變ノ起リ來ルヤモ測ラレサルノ情況トナレリ
茲ニ於テ軍ハ蹶然トシテ實力ヲ發動スルニ決シ綿密周到ナル準備ト疾風迅雷的行動ヲ以テ銀雪ニ凍ル天嶮大興安嶺ヲ突破シ悉ク反軍ヲ掃蕩セリ之カタメ被監禁中ノ同胞ハ全員救出セラレ蘇炳文ノ徒ハ十二月五日蘇領内ニ遁入セリ
工兵中尉荒木克業ハ敵ノ突放車ヲ脱線セシメ沈着果斷能ク皇軍ノ危急ヲ救フト共ニ我身ヲ粉碎シテ壯烈ヲ千古ニ傳ヘタルハ實ニ本作戰當初ノ十二月三日トス

三、三角地帯ノ討伐 (自十二月十三日) 第二師ノ一部、第六師ノ一部、獨立守備隊ハ海上ヨリスル海軍ノ協力ヲ得テ安奉線ト南滿洲鐵道ニヨリ包圍セラレタル三角地帯ヲ討伐シ鄧鐵梅以下ノ匪賊ヲ殲滅敗走セシム

四、第二師團ノ凱旋 第六師團ノ到着ト共ニ事變勃發以來到ル所武威ヲ發揚セル第二師團ハ三角地帯ノ討伐ヲ最後トシテ凱旋ノ途ニ就ケリ

五、吉林省東境方面ニ於ケル討伐 (自一月十日) 數次ノ討伐ニヨリ東境地區ニ壓迫セラレタル李杜丁超王德林等ノ反抗分子依然叛意ヲ囂ササルヲ以テ第十師團主力ハ昭和八年元旦ヨリ行動ヲ起シ零下四十度ノ酷寒ヲ克服シテ之ヲ掃蕩ニ任ス穆稜河ニ沿フ作戰部隊ハ六日密山ニ九日虎林ニ入り又綏芬河方面ニ差遣セラレタル部隊ハ四日八面通ニ十日東寧ニ入り之ヲ爲メ李杜王德林ハ露領ニ逃入シ丁超ハ步兵第六十三聯隊ニ退路ヲ遮斷セラレテ遂ニ投降セリ

六、山海關事件 (自昭和八年一月十日) 元旦日滿兩國官署ニ對シ手榴彈ヲ投シ射撃ヲ加ヘタルニ端ヲ發シ滿洲國々境警察隊ト何柱國軍ノ間ニ衝突ヲ惹起セリ之ヲ爲メ支那駐屯軍ニ屬スル同地守備隊ハ調停ヲ試ミニトセシニ却テ我ニ敵對セルヲ以テ茲ニ彼我戰端ヲ開キ第八師團又鈴木旅團ノ主力ヲ以テ増援シ一月三日何軍ヲ擊退シテ完全ニ山海關ヲ占領セリ十日當方面ノ治安概ネ回復セシヲ以テ一部ヲ之ニ殘置シ主力ヲ以テ關外ニ撤退ス

七、呼海線齊克線ノ連絡完成 (自十二月二十三日) 海倫一泰安鎮間一九三籽ヲ連接シテ二月十五日ヨリ齊々哈爾一呼蘭ヲ直通セルコノ環狀線ハ北滿交通史上ニ一新紀元ヲ開ケルモノニシテ七年六月工ヲ起シテヨリ同十二月二十三日軌道敷設ヲ完了スル迄實ニ酷熱ヨリ酷寒ニ亘ル半歲ノ日子ヲ費セリ則チ鐵道第一聯隊ノ滿鐵建設班ヲ併セ指揮シテ建設ニ着手スルヤ匪賊ノ跳梁甚シク遂ニ戰死者ヲ生スルニ至ル又八月ニハ未曾有ノ大洪水ニ會シ之カタメ諸元ヲ變更シテ工事ヲ再興セサル可ラサルニ至レリ然レ共隊長以下作業員全員不撓不屈悲壯ナル覺悟ト決死的努力ニヨル血涙ノ結晶ヲ以テ之ヲ完成セリ

八、熱河作戰 (自二月二十三日) 在熱河ノ湯玉麟ハ首鼠兩端ヲ持シ秘ニ學良ニ通シテ私利ヲ圖リ動モスレハ滿洲國擾亂ノ源叢タル觀ヲ呈セシカハ軍ハ遂ニ熱河省肅正ノ旅ヲ發セリ之ニ參加セルモノ第六第八兩師團、混成第十四、同三十三旅團、騎兵第四旅團ニシテ滿洲事變掉尾ノ聖戰ニ參加セントスル將兵ノ意氣天ヲ衝クノ慨アリ武藤軍司令官又戰闘司令所ヲ錦州ニ推進ス

時極寒ニ當リ秘境熱河ハ結氷ノ中ニアリ我將兵ニシテ凍傷ニ犯サレシモノ亦尠カラズ支那軍ハ不正規軍ヲ合シテ十三萬五千ト號シ省南境ニ於テハ二十萬ヲ算ス而モ我軍一度發スルヤ恰モ疾風枯葉ヲ卷クカ如ク空陸相呼應シテ奮進雷擊ス

第六師團ハ三月二日赤峯ニ第八師團(茂木騎兵旅團ヲ屬ス)ハ其ノ主力ヲ以テ三月四日承德ニ入り皇軍ノ威力爲メニ全世界ヲ震撼セリ野戰自動車隊ハ本作戰行動間或ハ先頭ニ進ミ或ハ後方ノ輸送ニ任シテ遺憾ナク新兵器ノ威力ヲ發揚セリ又後方輸送ノ爲メ徵發セル支那車輛ハ約九千輛ニ達シ解氷ニヨル泥粘或ハ崎嶇タル峻坂六百軒ヲ克服シタル地方縱列及幾多ノ危險ヲ冒シテ補給並ニ患者ノ後送ニ任シタル空中輸送隊ノ献身的努力又忘ル可カラズ

奉天附近ニ待機中ノリシ混成第三十三旅團ハ三月一日綏中附近ニ移動シ同六日ヨリ熱河省東南部ニ作戰シテ所在ノ敵ヲ擊破セリ斯クテ三月十日軍ノ第一線ハ長城ノニ達ス即チ當日ハ陸軍紀念日ト祝勝ノ二重奏ヲ以テ日滿兩國到ル所ニ萬歳ノ歡聲ヲ聞ク

九、帝國ノ國際聯盟脫退

壽府ニ於ケル松岡全權必死ノ奮闘モ效ナク帝國ノ正當ナル主張ハ悉ク國際聯盟ト相反シ帝國トシテハ最早聯盟加盟國タルヲ要セサルニ至リシヲ以テ三月二十七日聯盟脫退ニ關スル詔書ノ發布トナリ同日内田外相ヨリ國際聯盟事務總長宛脫退ノ通告ヲナセリ

一〇、北支作戰

約三十萬ニ達ス茲ニ於テカ北支第一次ノ進出ヲナシ遷安永平、昌黎及ヒ溼河右岸敵陣地ヲ占領シ忽チ敵ヲ溼河以西ニ擊退シタルヲ以テ四月二十四日長城ノ線ニ歸還セリ

然ルニ敵ハ更ニ我ニ尾シテ溼東地區ニ侵入シ來リ長城線ニ近迫シテ挑戰セシヲ以テ軍ハ第二次ノ進出ヲ敢行シ之ニ鐵槌的打撃ヲ加フルニ決ス即チ我將兵怒リテ烈火ノ如ク勇奮奮闘餘ス所ナシ戰車隊又挺進シテ悉ク敵陣地ヲ蹂躪ス第六師團ハ玉田豊潤ヲ經テ二十五日上倉林南倉ノ線ニ混成第十四旅團ハ石門鎮ヲ經テ同日夏店ニ第八師團ハ石匣鎮ヲ經テ二十三日懷柔ヲ占據シ混成第三十三旅團ノ第十師團復歸ト交代シタル步兵第二十八旅團ハ永平ヲ經テ二十二日窩洛ヲ占領シ將ニ北平ヲ衝カントセリ四月軍ノ隸下ニ入レル野戰重砲兵第九聯隊ノ一部亦之ニ加リ新銳ナル火力ヲ以テ支那軍ノ心膽ヲ奪ヘリ

一一、北支停戰協定調印

民國側ニ於テハ北支ノ危急ヲ聞クヤ蒼惶ナス所ヲ知ラス誠意ヲ以テ停戰ヲ提議セリ仍テ彼カ誠意ヲ容レ軍參謀副長岡村少將ハ日本代表トシテ民國代表熊斌ト塘沽ニ會シ五月三十日北支停戰ニ關スル協定ヲ遂ケ同日調印ヲ了セリ

一二、軍司令官ノ交代

曩ニ元帥ノ稱號ヲ賜リタル軍司令官武藤大將ハ全權大使、關東長官ヲ兼ネテ君國ノ爲ニ盡瘁中俄ニ病ヲ得テ六月二十七日新京ノ陣中ニ薨去シ新ニ菱刈大將重任ヲ拜ス

一三、北支進出部隊ノ復歸ト匪賊ノ警戒

軍ハ民國側ノ協定實行ヲ監視シツ、六月中旬以來北支進出部隊ヲ長城線ニ復歸セシメ次ヲ滿洲國內ノ治安確立ヲ第一義トシテ分散配置ニ移リ特ニ高粱繁茂期ニ於ケル匪賊ノ跳梁ヲ警戒セリ

一四、第六師團ノ凱旋

九月下旬ヨリ十月上旬ニ亘リ武動ヲ輝カシタル第六師團ハ逐次凱旋ノ途ニ就ケリ

一五、敦化―圖們江鐵道並拉法―哈爾濱鐵道ノ完成

敦圖線約一九一軒ハ昭和七年五月着工全八年九月一日完成、拉資線約二七二軒ハ七年七月着工、全八年十二月十六日完成ス

之レ鐵道第一聯隊、滿鐵建設班及各請負業者等全關係者ノ協力一致ニヨル献身的努力ノ賜ニシテ之カ直接警備ニ任シタル軍ノ犧牲者ハ前者ニ於テ下士官以下五十六名(外ニ朝鮮軍間島鐵道)後者ニ於テ將校以下七十四名ニ達ス

敦圖線ハ吉敦線ニ連リテ京圖線トナリ日本海ヲシテ名實共ニ日本海タラシメ拉資線ハ完全ニ北滿鐵路ノ死命ヲ制スルニ至ル蓋シ兩線ノ開通カ日滿兩國ノ國防經濟交通ニ及ホス影響ト意義トハ極メテ重大ナルモノアリト謂フ可シ

一六、吉林省秋季討伐

京圖線ノ全通ヲ見タルモ吉林省ノ匪害ハ依然尠カラサルヲ以テ軍ハ再ヒ第十師團長ヲシテ第十四師團、獨立守備隊ノ一部騎兵第一旅團ヲ併セ指揮シ之ニ滿洲國軍警ヲ區署セシメテ所在ノ小匪群ヲ求メ以テ徹底的討伐ヲ敢行セシメ概ネ所期ノ目的ヲ達成セリ

W

昭和九年二月二十日 印刷
昭和九年三月三十一日 發行

〔非賣品〕

陸軍恤兵部

不許
複製

印刷
者

和歌山市小松原通一丁目五番地

山崎 肇 一 郎

印刷所

和歌山市小松原通一丁目五番地

大正寫眞工藝所

製本 大藏書院傳書堂